

EOSNEWS VOL.13 2026.02



C o n t e n t s

- 1 表紙
- 2 後援会会長・学長挨拶
- 3 各専攻の紹介
- 4 基礎教育センター
- 5 主な学生受賞・採用等実績一覧
- 6 大学祭
- 8 課外作品展
- 10 サークル活動
- 11 学生会活動
- 12 大学院の紹介
保護者向け進路・就職ガイダンス
- 13 進路・就職支援
- 14 お知らせ

ご挨拶



秋田公立美術大学後援会 会長 佐々木 展

日頃より後援会の事業にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年10月に開催された「あきび祭」は秋のオープンキャンパスと同時開催され、当日は高校生や地域の方々など多くの来場者で賑わいました。雁木下では、学生達が制作した作品が販売されたほか、屋内外での各種パフォーマンスやファッションショーなど様々な企画が行われ、小さなお子様から一般のご来場の皆様まで、大学祭を楽しんでいただいている姿が印象的でした。

また今年度からの試みとして、大学祭期間中に作品展示企画「秋美展」も学内で実施され、来場いただいた皆様には学生達の日頃の力作をご覧いただけたことと思います。学生作品については大学祭に限らず、随時市内各所にて開催してい

る展覧会等でもご覧いただくことが可能ですので、ぜひ学修の成果を見に会場までお越しください。

さて、この度お送りさせていただく後援会会報誌には、こうした学生たちの活動など本学の最新の情報を掲載しておりますのでご一読いただければ幸いです。

最後になりましたが、今後も私たち、秋田公立美術大学後援会は、大学の維持発展と学生生活の向上に寄与することを目的として、大学祭や学生会、サークル活動や課外作品展の開催、そして資格取得や進路・就職活動など、学生の様々な活動を支援してまいります。

引き続きご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



秋田公立美術大学 理事長・学長 北郷 悟

皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。常日頃より後援会の皆様方には、本学へのご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本年度は、4年制大学として13年目を迎えますが、昨年度、第三期中期目標および計画も策定され、今後の新たな6年間でスタートしました。

秋田の持つ様々な素材・資源にも恵まれ、活動としてスケール感が増えてきており今日教員・学生共に成果発表としての個展・グループ展などに果敢に挑戦しています。

最近、テレビ・新聞等のトップニュースとして盛んに取り上げられている「クマ」問題があります。このような出来事が起きる数年前に本学の学生が作品題材を求めて山に入り、「クマ」と「人間」の領域に山の神という存在に気づき作品取材のための本格的な調査に入ったようです。その作品は、秋田の山そのものが「クマ」のフォルムをしたダブルイメージで表現され4mも的大作として仕上げられました。その卒業生は、狩猟の免許を取るなど「クマ」と「命」への基礎調査は、自然と向き合いマタギに同行するなど並大抵のものではなかったようです。大型の平面作品は現代絵画の登竜門VOCA展に出品され、見事、「大賞」に輝き一躍脚光を浴びました。秋田の資源からの素直な表現が一つの芸術としての回答を出しました。

秋田だからこそできる研究ですが、反面非常に危険な状況下でもあり、あらゆる危険を防止する観点から注意を怠らないで研究創作を続けてほしいと思います。

また、国際交流においてもアメリカ合衆国のロードアイランドスクールオブデザインの教員2名、学生14名が約1ヶ月

間に及び滞在し、ガラスのワークショップや展覧会、秋田県内の視察ツアーといった交流を行い両学にとって貴重な経験を積むことができたようです。

伝統的な新屋町家の風情を残す旧渡邊幸四郎邸計画もその一つ。明治23年から昭和38年まで勝平酒造であった所有者のご厚意により、学生や地域住民によるイベント会場として開放されてきました。今後、歴史的な趣を持った改修を施した後、その運営をアーツセンターあきたが担い、秋田公立美術大学の学生・教員らの制作や発表、地域との交流の拠点として活用していく計画です。

また、すでに先行されたプログラムとして「芝生の広場」と「千秋公園大手門の堀遊歩道」(2025年度グッドデザイン賞受賞 秋田市、株式会社建設技術研究所、コードアーキテクト株式会社)はキャンパスデザイン策定の基盤となるもので、芸術的な要素を用いたコンセプトは、その主旨に沿った「秋田の未来をつくる」プログラムに可能性を与えてくれます。

最後になりますが、秋田公立美術大学後援会の皆様方へのご報告として、フューチャーアーティスト基金をはじめ、あきびネット寄付金などについては、海外留学希望者、展覧会受賞者、成績優秀者への支援等に活用させていただいております。これからの大学運営の様々な地域との連携、就職活動、教員・学生のアーティスト活動へのご理解、ご支援、ご協力を頂けますようよろしくお願いいたします。

各専攻の紹介

アーツ&ルーツ専攻



アーツ&ルーツ専攻では、様々な素材と技法(表現媒体)を使って、「歴史」や「地域」を芸術表現の源泉とした作品づくりを行います。

まず、歴史や地域社会の文化的古層に残存する、異文化の伝承・地域・祭事・造形物といった文化資源を、文化人類学などの方法論によって発掘します。次に、それらが元々の文化のなかで担っていた意味や価値を、見慣れた現代社会の造形物の形の中に組み込んでいきます。平面・立体・映像・音響・写真・インスタレーション・影絵・言語芸術・パフォーマンス・アニメーションといった、多種多様な媒介と技法によって表現します。

学生たちは自身の関心に応じてフィールドワークをおこない、日常の中に埋もれている地域の記憶、暮らしの中にある造形や祭、里山・里海の動物や植物などを「存在の根っこ(=ルーツ)」として発見し、これまでにない斬新な表現を生み出しています。

令和7年10月21日には、秋田市内を徒歩で巡る、3年生のフィールドワークを開催しました。千秋公園内にある、彌高神社を参拝&見学し、神主さんから説明していただきました。次に、ねぶり流し館(秋田市民俗芸能伝承館)を訪れ、東北を代表する秋田のお祭りである竿燈祭りの展示を見学し、太鼓を叩くなどの実演をしました。最後は秋田市立赤れんが郷土館を見学し、常設展示や企画展「アーツ&クラフツ展」を見学しました。皆川嘉博教授の彫刻作品も展示されていました。遠くに赴かなくても秋田市内で充実したフィールドワークができました。

ビジュアルアーツ専攻

ビジュアルアーツ専攻では、社会の中に新しい視点を持ち込むための美術表現の確立を目指します。美術には「彫刻」や「油画」など、素材や技法、または表現形態によって分けられたカテゴリーがありますが、学生たちは一つのカテゴリーにとらわれず、他のカテゴリーや要素との融合を重ね、表現手法を学び制作しています。授業は、複数の教員による分野横断を基本とした共同指導のもとに行われます。3年生は前期で「空間」と「時間」をテーマにした作品制作を経験します。後期に入ると3回、それぞれ異なるテーマのもとに企画された展覧会を学外で発表します。これらの展覧会は設営や広報等すべて学生だけで運営します。4年生は卒業研究に向けて自分の表現を深化させていきます。将来、この経験を忘れずに、それぞれが学んだ手法や考え方、その発想力を社会の中で生かし、活躍することを願っています。



コミュニケーションデザイン専攻

コミュニケーションデザイン専攻では、コミュニケーションに内在する今日的な課題に取り組むための思考と表現についてビジュアルデザインの立場から研究します。課題の発見から企画、調査、計画、提案、制作、フィードバックまでの一連のプロセスを踏まえながら、幅広い観点から現代社会のあるべき姿を探求します。また、個人から発信される様々な情報のパラダイム(支配的な捉え方)を組み替えることによって、現代社会における新しい「個人」像の形成に寄与します。3年次のコミュニケーションデザイン演習2では、地元企業との連携による複合的なデザインワークに取り組む産学連携プロジェクト、スタジオ撮影から現像まで専門的に取り組む写真プロジェクト、漫画作品の作画からブック化まで一連の工程に取り組む同人誌プロジェクト、VIデザインに取り組む展開するデザイン、パッケージデザイン、ゲームデザインを学生が自由に選択し、それぞれ最適な表現成果の実現を目指します。



ものづくりデザイン専攻

ものづくりデザイン専攻は、秋田の伝統工芸教育と革新的なデザイン教育を融合させた、国内でも極めてユニークな教育分野です。かつて日本において一体であった「デザイン」と「手仕事」は、近代以降分離されました。本専攻は、この二つを結びつけ直し、現代の美意識を再構築することを使命としています。学生たちはこの理念に基づき、領域を超えた素材の融合や、デザイン的視点を取り入れた新たな作品を制作しています。私たちは学生の創造性を誇りに、秋田から世界へクリエイティブな力を発信することを目指します。



専攻の国際的な取り組みとして、今年6月にはアメリカ・ロードアイランド州にあるRISD(ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン)から学生と教員合わせて16名が来訪しました。約二週間にわたり、ガラス領域の学生とRISDの学生が協働でグループ制作に取り組みました。完成作品は秋田市の旧松倉家住宅で展示され、最終日にはプレゼンテーションを行いました。この国際プロジェクトを通じ、学生達は多様な価値観に触れ、クリエイターとして大きく成長する貴重な機会を得ました。今後も海外との交流を積極的に推進していきます。

景観デザイン専攻

景観デザイン専攻では、ランドスケープや建築のデザインから、社会への批評眼を持つパブリックアート、実践的なまちづくりまで、多岐にわたる領域を横断して学んでいます。学生は演習やフィールドワークを通して、自らの関心と表現領域を広げながら制作活動に取り組んでいます。



2年生の演習では「移動式映画館」を設計し、秋田市新屋ガラス工房にて実際に設営及び運営を行いました。当日は地域住民をはじめ多くの来場者で賑わい、場が創造される瞬間を体感しました。

3・4年生は、阿仁マタギ発祥の地としても知られる北秋田市根子集落でフィールドワークを行いました。民家改修の事例や伝統芸能「根子番楽」の練習の見学、地域住民との懇談を行い、さらに野生動物の解体にまで立ち会いました。歴史や命の営みに触れることで、「自然と人間の境界」をいかに構築するかという、景観デザインにおける根源的な問いに向き合い、各々の思考を深める貴重な機会となりました。

基礎教育センター本格始動



基礎教育センターの設置は、「新しい芸術領域の創造」という本学の基本理念をさらに推し進めるため、基礎教育(1-2年生)と専攻教育(3-4年生)の接続をより緊密にすること、そして高校とは異なる、大学における学習、教育環境の変化への適応をサポートする導入科目の充実を通じて、基礎教育課程における専門基礎科目を高度化し、学生たちの学びの深化をはかることの2つを狙っています。

基礎教育センターの設置により、制作に主体を置いた「基礎演習」と教養に主体を置く「基礎ゼミナール」という導入科目を新たに開設し、視野を広げることに加え、各専攻で培う専門性の土台となる知識、教養、技術といった基礎力を養います。

本稿では、「基礎演習」「基礎ゼミナール」について以下に紹介させていただきます。

基礎演習

令和8年度より、1年次の必修科目として導入される基礎演習は、制作に主体を置いた実践的な授業です。

4つの演習で構成されており、それぞれ①「観察・記録」②「視覚伝達」③「道具・構造・空間」④「時間・音響・映像」というキーワードに基づき、授業が展開される予定です。本科目の大きなねらいは、入学直後の段階から多様な表現方法に触れ、実際に手を動かして制作を行うことで、学生達が体験を通して視野を広げる点にあります。さらに、専攻選択を経て、各自の領域において専門性を深める際の基盤となる、知識・スキルを身に付けることを目指しています。

各演習は、異なる専攻に所属する6名の教員が担当する他、様々な専門性を持つ助手も支援にあたります。こうした多角的な指導体制の中で、学生達は多様なアプローチや考え方に触れ、本学の特色である、専攻を横断した総合的な学びが育成されます。また、特定のテーマについて、少人数制で一定期間じっくり学びを深める環境は、学生同士の結び付きの強化や、コミュニケーションの促進においても効果が期待されます。これは、安定した大学生活の確立にも寄与するでしょう。

次年度からの本格的な運用に先立ち、今年度は1年次の選択科目として、基礎演習「立体」を開講しました。授業では、立体物の制作に関する基礎的な理論や空間的な思考力を養うと共に、制作に必要な道具を正しく使用するための技術を習得しました。最終課題では、板材を切り出して6面体を制作し、塗装や磨きで仕上げを行いました。来年度以降は、4つの演習を通して多様な表現・アプローチに基づく学びを提供し、学生達の発想力・創造力育成に向けた基盤構築を進めてまいります。





基礎 ゼミナール

令和7年度後期から、新規科目「基礎ゼミナール」がスタートしました。既に開講している「基礎演習」と対になり、基礎教育の二本柱として期待される授業で、「基礎演習」は実技、「基礎ゼミナール」は理論を対象に、それぞれ基礎的な頭の使い方を身につけるというのが目標です。美術のための「作る頭」と「考える頭」を一緒に鍛える、といえれば分かりやすいでしょうか。

基礎ゼミナールの特徴は少人数の討議形式です。担当教員は10人、それぞれの先生に8〜10人の学生が付いて10個のゼミ(年によって違いがあります)が開講されます。先生方はそれぞれ専門の違うエキスパート。授業は異なったテーマで行われますが、それぞれ「なぜ」「なぜなら」といった視点を重視し、いわゆる論理思考のトレーニングを行います。ものごとを冷静に理解し、伝える言葉を持つことは、美術制作だけでなく人生そのものを豊かにし、困難を乗り越える力となることでしょう。

主な 学生受賞・採用等 実績一覧

- R7.2.6 ●月刊少年マガジコミック大賞デビュー (第22回)
奨励賞 須藤 知花 (コミュニケーションデザイン専攻3年)
- R7.2.16 ●日の丸醸造 ラベルデザインコンテスト
純米賞 佐々木 亜胡 (ビジュアルアート専攻4年)
- R7.3.17 ●三種中学校校章デザイン
三種中学校校章デザイン最優秀賞
北林 唯愛 (コミュニケーションデザイン専攻4年)
- R7.4.23 ●マガジナイズ (2月期)
ネクストライズ賞 作家名「とまごろう」(コミュニケーションデザイン専攻4年)
- R7.4.28 ●日本学生 BtoB 新聞広告大賞
協賛企業 (課題企業) 賞 藤田 あいみ (2年)
- R7.4.28 ●日本学生 BtoB 新聞広告大賞
協賛企業 (課題企業) 賞 佐々木 碧樹 (コミュニケーションデザイン専攻4年)
- R7.5.14 ●the Choice
入選 葛原 圭斗 (コミュニケーションデザイン専攻4年)
- R7.6.6 ●マガジナイズ (3.4月期)
シルバー賞 作家名「ぐみ胡」(ビジュアルアート専攻4年)
- R7.6.16 ●第67回秋田県美術展覧会
特賞 (秋田県教育委員会教育長賞) 高崎 結子 (ビジュアルアート専攻4年)
- R7.6.21 ●第67回秋田県美術展覧会
特賞 (秋田県教育委員会教育長賞) 藤原 櫻和子 (大学院修士課程複合芸術研究科2年)
- R7.7.14 ●「推しの子」ファンアートコンテスト
イラスト部門優秀賞 小向 莉子 (アーツ&ルーツ専攻3年)
- R7.9.8 ●第19回KAJIMA彫刻コンクール
模型入選 高崎 結子 (ビジュアルアート専攻4年)
- R7.9.22 ●月例ガンガンJOKER新人マンガ賞 マンガ部門
特別奨励賞 ペンネーム「町田さんだ」(コミュニケーションデザイン専攻4年)
- R7.10.25 ●第11回リサイクルアート展
優秀賞 高谷 和 (アーツ&ルーツ専攻4年)
- R7.11.3 ●ディファレント京町堀アートフェア2025
審査員賞 齋藤 操 (アーツ&ルーツ専攻4年)
- R7.11.10 ●第30回フラッグデザインコンテスト
最優秀賞 近藤 晴香 (2年)
- R7.11.21 ●月例ガンガンJOKER新人マンガ賞 マンガ部門
特別奨励賞 ペンネーム「町田さんだ」(コミュニケーションデザイン専攻4年)
- 7.11.30 ●技育展2025
企業賞 吉田 峻晟 (大学院修士課程複合芸術研究科2年)



第67回秋田県美術展覧会 特賞



技育展2025 企業賞



テーマ：異世界のお祭り

■実行委員長 佐藤 陽(2年)
今年度の大学祭「あきび祭2025」の実行委員長として、企画立案や実行委員会の運営を行いました。約1年前から準備を始め、名称の変更、秋美展の同時開催、トークイベントなど新しい試みに取り組んできました。大変な道のりでしたが、来場者のみなさまには多くのご好評をいただけて、楽しんでいただけていたら嬉しく思います。

成功させることができたのは学生、先生方、事務局のみなさま、協賛企業や地域のみなさまの力あつてのことです。誠にありがとうございます。また、今年の反省は引継ぎ改善して参りますので、来年度以降の学祭もどうかよろしくお願ひ申し上げます。

■副実行委員長 小野裕奈(2年)
あきび祭2025に向けて、主に書類申請などの事務関係の業務を担当させていただきました。私自身、今年度から実行委員として参加させていただきましたが、昨年に引き続き、大いに盛り上がったのではないかと実感しております。生憎の雨天ではありましたが、今年から初の試みとなるイベントや、学生たちの個性や努力が輝く模擬店や展示、校内

秋田公立美術大学 大学祭
あきび祭
2025
~異世界のお祭り~

2025
10.11(土)
10.12(日)
10:00~17:00
※11日はオープンキャンパス同時開催

会場：秋田公立美術大学
秋田県秋田市新屋大川町12-3

●電車でお越しの場合
JR 秋田駅 から 羽越本線 新屋駅 下車 徒歩 15 分
●バスでお越しの場合
秋田駅西口から秋田中央交通バス・新屋線 美術大学前 下車 徒歩 1 分

018-888-8105
gakusei@akibi.ac.jp

イラスト：ごしゃ未知

を彩る装飾など、視覚的にも楽しむことができ、「異世界のお祭り」というテーマが光るあきび祭となりました。そこにはやはり、多くの方々から支援していただいたことが大きく関係しており、実行委員一同心より感謝しております。今後のあきび祭の更なる発展を願ひ、私自身も尽力してまいります。

■イベント部門長 林 遥佳(2年)

大学祭のイベントは楽しんでいただけただでしょうか。今年度のイベント部門では、ステージでの教員と学生が対談するトークイベント、居合や箏演奏などの出し物発表、様々なファッションを披露するファッション選手権、問題を解きながら学内を探索するスタンプラリーなど今年初となる様々なイベントも交えて企画し運営してきました。私は実行委員初参加の身であり、慣れない事も多く、たくさんの方に迷惑をかけてしまいました。なかんずかやあってこれたのはみなさんの協力があったからだと思っております。有難いことに良かった、楽しかったなどのお声も何件か頂いており、本当に嬉しく感じております。学祭に協力してくれた方、関わってくださった皆様、本当にありがとうございます。

■イベント部門長 山川ももこ(2年)

今年度は、昨年の学祭が終わった時点から動き出し、企画し運営まで見通しを持ちながら全体的に早く動くことができました。最後までイベントが何事もなく無事に終えることができたのは、実行委員をはじめ、多くの方々の協力があつてこそです。「ファッション選手権」は女装部門とコ

スプレ部門に分かれて開催し、女装部門での投票は100票以上も集まり、かなり接戦でした。2日目のみの開催でしたが、雨の中でも盛り上がり、終わった後も撮影会が行われていて、企画して良かったです。来年は今年よりもパワーアップして開催したいと思ひます。

屋外ステージでのイベントは今年初開催の企画でした。「トークイベント」ではMCの方がトークを上手に回して下さったため、予定時間より押ししてしまうほど大変盛り上がりました。高校生から地域の方まで、座ってじっくりと聞いてくださったことが嬉しかったです。「何でもステージ」では、楽器演奏や居合道演武という豪華な演出が揃い、「美大生×楽器」「美大生×居合道」という、化学反応のようなものが生まれて、多くの方々がかきこまれていたと思ひます。

「スタンプラリー」は、1年生が企画し運営まで担当し、今年度のテーマである「異世界のお祭り」にちなんだクイズでより楽しめたと思ひます。完成した絵を見て喜んでる姿が多く見られ、嬉しかったです。

観客の皆様、出演者、MCの皆様、イベントを盛り上げて下さったことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

■装飾部門長 小林征良(2年)

2025年度あきび祭装飾部門を担当いたしました小林です。今年度あきび祭の装飾目標は低予算で大きいものを作ろう！でした。色々なサイトを見て、このお店で注文すれば安い！こっちだとちよつと高いな…とたくさん調べて材料を購入しました。そして、大きいものを作ろうという目標があつたので実行委員の話し

合いを経て東北にある美大ならばねぶた風のオブジェを作るのが良い！となり実行委員達でねぶた風のオブジェを試行錯誤しながら作りました。夏休みは毎日学校に行き装飾作りをしていたのでとても大変でしたが、あきび祭へ訪れた人たちがオブジェの前で記念撮影をしているのを見て実行委員そして装飾部門長をやっているよかったです。

■模範店部門長 佐藤華恋(2年)

こんにちは。模範店部門です。模範店部門は事務作業が多いため、主役は私たち実行委員ではなく出店者のみなさんです。今年度はたくさんの方々に出店いただき、大変盛り上がりました。

はじめてのことが多く出店者のみなさんにはご迷惑をおかけしたことも多くありましたが、みなさんのご協力のおかげで無事成功に終わることができ、大変嬉しく思っております。来年度はさらに多くの方に出店いただき来場者の皆様に楽しんでいただけるように、今年度の反省を生かし、出店の際システム作りやみなさんとのスムーズなコミュニケーションを取れるように努めてまいります。

この場をお借りしまして、学生のみなさんには改めてご協力感謝申し上げます。

■物品制作部門長 門荃杏菜(2年)

今年度、物品制作部門ではポスター・パンフレット・ロゴ・公式グッ

ズの制作を行いました。その中でも、今回初めて挑戦した公式グッズの制作では、スケジュール管理や納期、デザイン面など多くの点で苦労しました。しかし、その努力の甲斐あって、多くの方に興味を持っていただき、実際に購入していただけたことが本當にうれしかったです。

特に、秋美の教員の方々と協力して制作した「教員シール」は非常に好評で、学祭後もスマートフォンに挟んで使ってもらっている方や、パソコンに貼ってくれている方を見かけるたびに、制作してよかったと心から感じました。

今年度は、例年の業務に加え公式グッズの制作、さらに人員不足という状況も重なり、大変な一年ではありましたが、その中でもここまでやり遂げることができ、本當に良かったと感じています。仕事に関わってくれたあきび祭実行委員会の皆さんはもちろん、ご協力いただいた先生方、先輩方、そして購入して下さった皆さまには感謝してもきれません。改めて、本當にありがとうございます。



■展示部門長 佐藤佳織(2年)

「秋美展」は学祭と同時開催の展示会です。昨年よりも作品の数を増やして美大の学祭として展示を盛り上げることに努めました。今年から新体制だったので学生を困惑させてしまったこともあると思うのですが、たくさんの方の出展とご来場ありがとうございます。

やはり大きな点は展示をするに当たってビジュアルアーティスト専攻の方や助手の方々からのご協力です。インスツールの手法を共有していただいたことで学生の展示の知識へ繋げることが、また出展者から鑑賞者までが安全に展示に関わることができました。

来年度も多くの学生がより快適に展示に関わってもらうために体制を整えることに努めていきます。

■外部連携部門長 鎌田ひかる(2年)

外部連携部門では地域の企業に赴き、協賛金を募る活動を行いました。その成果として今年度は、26の企業から合計147,000円のご協賛をいただきました。この場をお借りし、改めてご協力くださった皆様へ感謝申し上げます。

協賛金を地元の企業から募る活動は過去にも行われていたがコロナ禍によって一度途絶えており、今年度はほとんど1からのスタートで手探りと挑戦の毎日でした。大学を代表し企業の方とやり取りするにあたって、手続きやマナーなど社会に出る上で必要不可欠な事柄を多く学ぶ機会になったと考えています。今後も大学と地域をつなぐ一つの形として機能できる部門になることと思います。

■広報部門長 小倉氷咲(2年)

今年の広報部門では公式SNS運営を主に活動し、初の試みである公式HP作成や当日の写真記録等の活動をしました。

公式SNSでは昨年よりも大幅に投稿数を増やし、初企画である教員インタビュー動画の投稿やあきび祭のカウントダウン投稿をリアル動画にするなど昨今のSNS運営を意識した投稿をして、『あきび祭』を学外・県外の人にも知ってもらうために頑張りました。

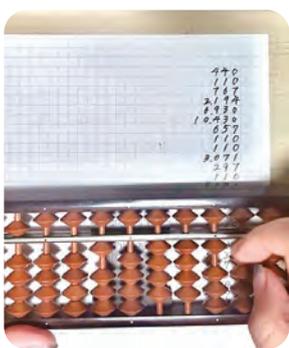
公式HPもどうしたら使いやすいかなどデザインも工夫して制作できたと思います。

学祭を運営するうえで共に頑張ってくれた部門長達と学祭を成功させるために尽力してくださった関係者の方々、イベントや模範店等で盛り上げてくれた秋美生、当日会場に来てくださった方々に感謝申し上げます。

公式SNSは引き続き投稿をしていくので、今後もよろしくお願ひ致します。

■会計部門長 藻越万理乃(2年)

今年度会計部門長を務めさせていただきました。藻越万理乃です。会計部門は昨年度までの予算を見直し、様々な部門の動きに合わせて配分を行いました。実行委員の皆の作業が滞りなく行えるよう、金銭面でのトラブルが起きないように迅速かつ丁寧に動くよう頑張りました。今回は部門ごとに経費の削減を試みており、無事削減には成功した所や改善しないといけない、学生ともっと話し合わなければならぬ点も多く見受けられました。来年度は人員を増やし、更に良い学祭にするため、学生の意見を取り入れながら精進して参ります。



EXHIBITION



Artist shop 2025.6.9-6.21

大町ビル 大町ギャラリー

大村 香琳 (大学院修士課程複合芸術研究科 2年)

秋田県在住の作家を中心としたグループ展示に参加し、秋田の風景を主題とした版画とその版を5点、出品しました。描いたのは、羽後牛島にある金照寺山のフィールドワーク中に会ったカモシカや、冬の旭川に浮かんでいた白鳥、羽越本線で見かけた夕方の光景などです。また、大学キャンパスを写した写真を背景に、私が踊る姿を撮影した記録写真の展示も行いました(撮影:Liu Mengchen/本学卒業生)(大学院広報誌『TRANS_02』にも掲載されています)。

版画と踊り、一見かけ離れたように見えますが、「身体的な手ごたえ」の探究という点で共通しています。自分が今置かれている場所との関係性と、それを問うより以前に、場と混ざり合うように一体となって存在している自分の身体を通して感じたことを確かめるライフワークです。



撮影:Liu Mengchen (artist shop)

EXHIBITION



国際的非暴力展 # SUM-MER2025

2025.7.5-8.3 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

大村 香琳 (大学院修士課程複合芸術研究科 2年)

世界中で暴力による支配が発生している事態を考え、抵抗し、行動を起こすための展覧会です。私は、手彫りした12個の判子と紙とインク、二つのサイコロを用意し、来場者が説明に沿って押印する参加型の作品を展示しました。タイトルは「暫定「いいかげんに信じる」よりほかにない」です。

その背景には、分断は、他者に対して大袈裟な信心や激しい疑念を抱くことによって生じる摩擦に起因するのではないかという問いがあります。油を差し摩擦を防ぐように、まずはいい加減にでも相手を信じてしまうことによってその間に薄く膜を作る。その上で、差異を含めた自他の中間領域を探り、行動を続けることで関係性を築き、また問い直し続けることができるのではないかと考えました。しかしいざ致命的な暴力を向けられた時に、この姿勢を貫ける自分があるのかはまだ判断がつかえません。これらの問題に対する思考は永続的に更新されるべきだと思いを込めて「暫定」です。

また、展覧会ロゴ(デザイン:大槻智央)の判子も制作しました。他の参加者の作品や広報物、さまざまな書類に押印されました。



撮影:黒川菜月



EXHIBITION



わたしわた展

2025.5.14-5.23 新屋NINO

小向 莉子 (3年)

新屋NINOにて初めて個展をさせていただいた展示でした。最初に、イラストとキャラクターデザインからこの展示は始まります。時系列順に作品をまとめたので、変遷を楽しんでいただけたかと思います。次に漫画で世界観を深めていただき、最後は詩と小説で締めくくっています。徐々にディープに、自分の作品の世界に入り込むような仕組みの展示になっていました。お越しくださった皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました!



EXHIBITION



ART STORE IYN Beautiful 4

2025.3.21-3.30 新屋NINO

小向 莉子 (3年)

綺麗で美しい人、力強く可憐な花・無限に広がる空や星々、忘れられない故郷の風景に、懐かしい温かなごはんの味のように「美しい〇〇」「綺麗な〇〇」という自由な発想で描かれた、たくさんの美しく綺麗な作品が展示されていました。今回、私は自分のオリジナルキャラクターの立ち絵のデジタルイラストを3点寄贈させていただきました。お越しくださった皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました!



課外作品展

EXHIBITION



あきた まちのえき 夏

2025.8.9-8.24 秋田駅ビル「アルス」地下1階

鈴木 歩千 (3年)

東京藝術大学と東日本旅客鉄道株式会社による共同事業「あきた まちのえき 夏」に参加しました。

閉店した秋田人形会館から譲り受けた布を基に、つまみ細工の作品を制作しました。長年地域の人々に愛されてきた伝統あるお店が幕を閉じた事実を前に、その哀しさや寂しさをどのように作品へ落とし込むかを考えながら、一枚一枚の布に込められた歴史や想いを丁寧にすくい取るような気持ちで制作に向き合いました。

今回、授業以外で自身の作品を展示するのは初めての経験でしたが、多くの来場者の方々に足を止めてご覧いただき、さまざまな感想やあたたかい言葉を直接伺うことができ、今後の表現活動を続けていく上での大きな励みとなりました。



眞壁 珠洲子 (3年)

秋田駅ビル「アルス」地下1階にて、2025年8月9日から24日の間開催されていた「あきた まちのえき 夏」に参加し、ライブドローイングを行いました。会期中の土日祝日に作品の公開制作を行い、平日は途中経過の状態を来場者の方々にみていただきました。持ち運びのできる小ぶりの木製パネルをつくり、アクリル、パステル、墨、モデリングペストを画材として使用しました。あえて絵の構図を事前に決めることはせず、会場で手を動かしていく中で即興的に絵作りを進めました。来場者の方々の温かい見守りや会話をする中で生まれた表現があると思います。特に、来場者のお子様と一緒に絵の制作をしたことはとても貴重な経験になりました。



EXHIBITION



AUA Crafters サークル展「夢の層」

2025.6.14-7.11

秋田公立美術大学サテライトセンター

小森 翔生 (3年)

AUA Craftersによる今回の展示では、「夢の層」にちなんだ絵画や写真、イラストと言った形で展示を行いました。個々が創作する領域において、積み重ねてきた作品の層と、無意識かつ無自覚な部分にこそ宿る「個性」や「物語」に触れられるような展示にしました。1年生から3年生までの計8名が参加し、後半には作品数も増えて最終的に25点が揃いました。広いスペースでの展示は手探りの部分も多く、互いに協力しながらレイアウトや制作を進める貴重な経験となりました。また、展示を通して自分たちの表現を客観的に見つめ直す機会にもなりました。今回得た学びを今後のサークルや自主制作等の創作活動に活かしていきたいと考えています。ご来場くださった皆様、誠にありがとうございました。



EXHIBITION



「美と暴力」展

2025.6.30-7.4 ヒュッテ

佐藤 穂波 (3年)

私には、ものや人、作品を見て「美しい」と思う感情、「美しい」を見たい感情があります。それと同時に「何かをとてつもなく破壊したい」暴力的な感情をもち、フィクションの作品で発散させる行為を繰り返しています。糖分を食べると塩分が欲しくなるように、両極端の感情を行ったり来たりしています。本展では、金髪美少女やシンメトリーの絵など主観的に自分が美しいと思う概念を描いたイラストと身体的、精神的な暴力を描いたイラストを同じ空間に展示しました。各イラストの横に、描かれたテーマに対する自分の意見や体験を記載し、鑑賞者もそれぞれの意見を書ける紙とボックスを配置する体制をとりました。自分以外の人間が思う「美と暴力」を知ることができ、実験的で良い展示となりました。



EXHIBITION



アートな時間

2025.9.20 能代市文化会館

佐藤 穂波 (3年)

2025年9月20日に能代市文化会館大ホールで「アートな時間」のクラシックパレエ発表会が開催され、これに合わせて、学生の作品と能代市に関連した社会連携事業の展示を会場ホワイエで行いました。また学生の絵画をモチーフにした舞踏が披露され神秘的な空間を会場全体で共有できました。私はこれまでに描いた小さい絵画を4点出展し、訪れたお客様から絵画の感想をいただいたり質問に答えたりするなど、良い経験になりました。能代市での展示や芸術鑑賞は初めてだったので、新しい刺激をもらいました。展示にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。



EXHIBITION



いろいろ展

2025.2.8-2.20 新屋NINO

五社 光希 (3年)

現三年生の津川沙千、佐藤穂波、五社光希の3人で企画したグループ展です。絵画、ぬいぐるみなど各々の世界観がバラバラの3人で、3人の色を見せた展示にしようとおもい、この展示タイトルにしました。搬入など、展示計画などで、複数人での展示を行うことがこれまでなかったので、もっとできたな、こうしたら良かったな、という点は多々ありますが、無事開催することができ、自分たちの制作につながる展示を行うことができました。きてくださった方から感想をいただいて、より自分の課題や、強みを各々活かすことができ、その点においても、開催まで行うことができてとても良かったです。



課外作品展

EXHIBITION



第67回秋田県美術展覧会 2025.6.20-6.25

秋田市アトリオン、県立美術館、にぎわい交流館 AU

藤原 櫻和子 (大学院修士課程複合芸術研究科 2年)

彫刻部門にて特賞(秋田市教育委員会教育長賞)を頂戴いたしました。第66回に続き再び受賞の機会を頂きましたこと、大変光栄に存じます。今回は「あの日、風が流れる。」というタイトルの作品を出展いたしました。普段は焼きものを中心に制作しており、風が通り抜けるような形の在り方を探っています。制作を進める中で、秋田のこと、そして自分の故郷のことを改めて思い巡らせていたように思います。



県展への出品は今年が最後になるかと思いますが、今後ますます会が賑わっていくことを心より願っております。

小原 里子 (1年)

第67回秋田県立美術展覧会において、洋画部門に出品し、入選しました。作品のタイトルは「木と家」です。樹木の根や、苔むした自然の風景が大好きなので自分の理想の景色を絵にしました。



県展には中学生の頃から毎年美術部の活動で出品していましたが、部室にある絵の具を好きにだけ使わせてもらっていたので、大学生になってからは自分で負担しなくてはならず手痛い出費だと感じていました。しかし、本学の助成金制度を受けることで絵の具代どころか出品料までそれで賄うことができました。自分で創作活動をしたい学生にとっては非常にありがたい制度です。これからも未永く活用させていただきます。本当にありがとうございました。

EXHIBITION



「ARCHE アルヒ」
STUDIO DANCE ONE THE ORIGINAL PERFORMANCE

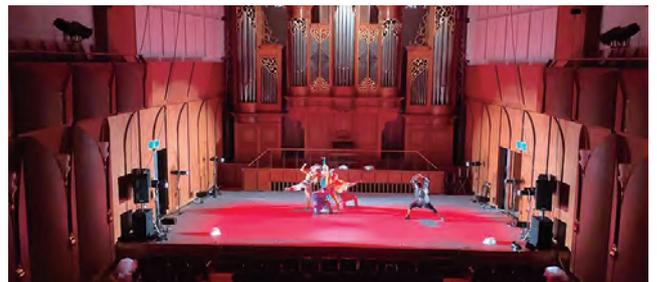
2025.5.5 盛岡市民文化ホール小ホール

ブラネン新那サイデ (4年)

所属している岩手県盛岡市にあるダンススタジオ「スタジオ DANCE ONE」での舞台上で、初めての試みとして舞台上で踊る演目を数曲、作らせていただきました。

「ARCHE」というギリシア語のタイトルには、始まりや根源という意味合いがあります。

私は、振り付け、音楽編集、衣装制作を行いました。ここで紹介する演目のタイトルは「アルヒ、森で遊んでいたら…」ですが、昆虫たちが森で楽しく遊んでいたら大きくて怖いカブトムシが邪魔をしにきて、昆虫たちが団結してカブトムシを倒すというコンセプトにしました。振り付けの動作や構成は存在する虫を観察し、自分たちがまさに虫であるように踊りました。衣装制作では、存在する虫の特徴を取り入れ、蛾・蝶々・蜂・テントウムシ・カマキリをモチーフにした五匹の衣装や小物を創りました。



<club-activities>

サークル活動

野外サークル

代表 永井 一海 (2年)

野外サークルはフィールドワークを主軸に活動しており、屋外にすることにより生のものに触れる体験を重視しているサークルです。

毎週月曜に打ち合わせを行いそこからフィールドワークに向かいます。自分から提案するもよし。他人の案に乗るもよし。さまざまな活動をしていきたいと考えています。最近は熊対策のため活動は縮小していますが今後も安全に配慮して活動を継続していきたいです。

また、このサークルで得た生の体験を元に各々の作品制作に役立てればと思っています。



せっせこ雪っこ

代表 藤原 聖奈 (4年)

県内外出身の学生、地域の方々、その他本大学を訪れる全ての方々を雪を楽しんでもらうことが本サークルの目的です!

活動はほとんど、雪の降る日のみにはなりますが、楽しく皆で冬を乗り切りましょう!!

設立して間もないサークルですが、今後の展望としては大学内だけではなく地域の雪に関わるイベントにも参加したいと考えています。雪は危ない面もあれば、変幻自在の面白さもあり!!! せっかくの雪国生活を存分に楽しもう!!!!



学生会活動

学生会長 玉柿 清花(3年)

学生会活動を支えてくださっている皆様、いつもお世話になっております。

現在の学生会は、学生がより過ごしやすいうちに、より楽しく充実した学校生活になるように活動方針を定め、活動してきました。今年はいベントの企画・運営だけでなく、新しい仕組みを作って、少し実験的に動かしてみたり、今までやってきたことを再検討してみたりなど、とにかくたくさんの方に挑戦した学生会だったと思います。

イベント運営に関しては、コロナ禍以前に学祭で行われていた「秋美ファッションショー」復活に向け企画しました。「燈」というテーマを掲げ、予算も組み、スタジオ撮影にインスタの投稿など初めてなこともあり、探りながら慎重に進めていきました。当日は天候が悪いにもかかわらず多くの人に見ていただけたので大変嬉しく思います。参加してくれた方々が制作した衣装もとても素敵なものばかりで、1つ1つが丁寧に作られていました。今回のことをきっかけに、秋美ファッションショーを伝統化させるような勢いで続いていくって欲しいと考えています。

来年度もぜひ色々なことにチャレンジしていくって欲しいです。大変かもしれませんが、いつもと違うことをするのはどこか実験的要素もあり作っている側もやりがいがあります。学生会ではない学生も巻き込んでしまっても良いかもしれないですね。

最後に、本年度も残りわずかではありますが、最後まで努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

学生会副会長 鎌田 ひかる(2年)

はじめに、学生会を日々支えてくださっている皆様へ感謝申し上げます。

私は今年度の副会長として、ミーティングや全体の進行の補助に努めました。これまで不定期だったミーティングを定期的に行うことで、毎月のイベントやその他の活動も活発に行うことができたと感じています。これらのイベントは、新たに開設した学生会のインスタグラムアカウントでも周知を行なっています。また、サークル長同士の連絡手段整備や体育館カレンダーを使った体育館利用者の管理など、充実した学生生活を実現するために新たな取り組みも行いました。

最後に、来年度は学生のより良いキャンパスライフの為さらに尽力して参りますので、引き続きよろしくお願いたします。



学生会 広報担当 稲村 妃那(2年)

まず初めに学生生活を支えてくださっている関係者の皆さん、感謝申し上げます。

広報の活動といたしましては、アルバイットの募集、展示の募集や個展の呼びかけなどのサポートを主に行っています。近年ではInstagramの活用も行い、よりリアルな学生の様子であったり、月のイベントカレンダーの掲載なども行い生徒が活用する頻度の高いデバイスでの広報にも力を入れています。

広報は学内の学生だけでなく、外部からの展示の呼びかけや、短期バイトの募集など学生の視野が広がり、多くの場面で自分の作品を販売、発表できる機会が訪れる窓口となる役割であり、私は誇りと責任を持って活動しております。

最後にはなりますが、これからも我々学生一同の活躍を温かく見守っていただけますと幸いです。

学生会 会計担当 中嶋 綾乃(2年)

学生会を日々支えてくださっている皆様、お世話になっております。

今年度は、学生会費をより学生に還元していきたいと考えている会長のもと、会計として動きました。学生の皆さんから預かった会費は、学生会開催の催し物を通じて、還元しています。学生会での会議の中で、公正に話し合いを行い、より有意義な選択ができていると感じています。これからは、皆さんの豊かな学生生活のためになる、学生会費の使い道を考えていきたいです。

ぜひ学生の皆さんには、学生会主催のイベントに来ていただきたいです！学生生活の楽しみをつくるお手伝いができれば幸いです。



大学院の紹介



大学院・複合芸術研究科の今

大学院複合芸術研究科 研究科長 岩井 成昭

後援会の皆様によるお力添えにより、本学の大学院複合芸術研究科も修士課程開設から8年目となりました。全国で唯一の「複合芸術」という研究科の名称と教育理念も学生と教員による不断の研究活動によって、県内外に浸透しつつあります。入学希望者も数年前からは安定した倍率を維持し、特徴ある教育内容に期待して、全国から優秀な学生が集まっています。また、中国からの留学生にも高い人気を得ています。それでも一つ課題があるとすれば、本学学部生の進路先として優先順位が低いことでしょうか。

学部における4年間の学びは、一般企業の就職においても大いに生かすことができます。しかし、アートやデザインの専門性に目覚め、表現者として自立する可能性は、さらに大学院で研究することで大きく広がります。その扉を開くためにも保護者の皆様、ひいては後援会全体のいっそうのご理解が必要です。全国唯一のユニークな大学院がこの秋田に存在することを誇りに思ってもらえるように、また、大学院をもっと身近に感じて頂けるように、今後も学生と教員が一丸となって精進していきます。

保護者向け進路・就職ガイダンス

10月11日の大学祭に合わせ、対面により「保護者向け進路・就職ガイダンス」を実施しました。

本学キャリアセンター長である安藤康裕教授が講師となり、「秋美生の進路活動および保護者の支援」について講演いただきました。講演では、美大で培われるスキルや能力、卒業後の進路、今年度内定を獲得した学生の実際の事例をもとに就職活動の流れなどについて具体的にお話しいただきました。

また本学における個別のキャリアカウンセリングや物品面、金銭面でのサポートなど充実したキャリア支援体制についての説明もあり、当日説明会に参加された保護者の皆様にとっては、今後のお子様の就職活動についてご安心

いただけるような内容になったのではないかと思います。

後援会では、今後とも学生の進路・就職活動について、各種助成や保護者向けガイダンス等を通じてより一層の支援を継続して参ります。



進路・就職支援

令和6年度卒業・修了生の進路状況

昨年度卒業した美術学部第9期生の進路決定率は96.2%、大学院複合芸術研究科第7期生の進路決定率は100%でした。美術学部の就職先として、学びを活かせるクリエイティブ系企業への就職が約23%、同じく販売・接客・サービス業が約23%、企画職・営業職が約22%、そのほか事務・公務・製造が少数おります。また、さらなる知識と専門性を身につけようと大学院等進学する者が8名おりました。

本学では、キャリア教育科目を設置し、企業の採用担当者や美大芸大の就活に特化した学外講師を招聘するなどし、幅広いキャリア支援を行っております。また、ポートフォリオ（作品集）作成のためのガイダンスや就活対策講座を開催するなど、各種講座を開催しています。専門職のみならず幅広い進路に対応できるよう今後もより一層の支援の強化を図ってまいります。

令和6年度美術学部卒業生進路状況

R7.5.1
単位：人

卒業生①	就職		進学・留学		作家・フリーランス・起業		卒業活動・その他 未定者⑧	進路決定者数 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	進路決定率 ② ④ ⑥ ⑧ ⑨	
	希望者②	決定者③	希望者④	決定者⑤	希望者⑥	決定者⑦				
美術学部 美術学科	93	63	60	8	8	8	8	14	76	96.2%
		決定率 95.2%	決定率 100.0%	決定率 100.0%						

以下令和6年度内訳

単位：人

希望進路明確者数	79	100%
就職決定者数	60	75.9%
進学・留学決定者数	8	10.1%
作家・フリーランス・起業決定者数	8	10.1%
未決定者数	3	3.8%

職種別採用企業数	数	割合
クリエイティブ関連業務(グラフィック・パッケージ・プロダクトデザイン、イラスト・背景美術制作、Web制作、映像制作、舞台美術、ものづくり、建築設計等)	14	23.3%
販売・接客・サービス業務	14	23.3%
企画職・営業職	13	21.7%
製造・加工業務	5	8.3%
教員・学芸員・児童支援	5	8.3%
事務・管理業務	2	3.3%
その他	7	11.7%

就職決定者数	数	割合
①秋田県内所在企業等就職者数	13	21.7%
(秋田市内所在企業等就職者数)	(10)	(16.7%)
②秋田県外所在企業等就職者数	47	78.3%

秋田県内所在企業等就職者数	13	100%
秋田県内出身者数	9	69.2%
秋田県外出身者数	4	30.8%

秋田県内出身者就職決定学生数	16	100%
秋田県内所在企業等就職決定者数	9	56.3%
秋田県外所在企業等就職決定者数	7	43.8%

令和6年度複合芸術研究科修了生進路状況

R7.5.1
単位：人

修了者①	就職		進学・留学		作家・フリーランス・起業		修了後活動 その他 未定者⑧	進路決定者数 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	進路決定率 ② ④ ⑥ ⑧ ⑨	
	希望者②	決定者③	希望者④	決定者⑤	希望者⑥	決定者⑦				
複合芸術研究科	14	8	8	2	2	1	1	3	11	100%
		決定率 100.0%	決定率 100.0%	決定率 100.0%						

就職決定者1名(県内出身者)が秋田県内に就職しました。

進路先

詳細な進路状況について本学ホームページに掲載しておりますのでぜひご覧ください。



大学における支援内容

①キャリア教育

必修科目として「キャリアデザイン1」、選択科目として「キャリアデザイン2」等の6つの科目を用意し、様々な視点からキャリア形成に係る知識を学びます。

②各種ガイダンス

就職に関する基礎的な理解を深め、より実践的な知識を得るため、様々な分野の方々を講師に招きガイダンスを開催しています。「業界・業種研究セミナー」や「学内企業研究会」にて業界研究やインターンシップ情報や求人情報収集等を行います。

③新規企業開拓

専門性を活かせる美術・デザイン関係の企業や民間企業との繋がりを一層広げるため、対面やオンラインによる情報交換会等への参加、企業訪問等により新たな就職先の開拓を行っています。

④各種カウンセリング

進路相談や履歴書添削、面接練習、ポートフォリオ作成支援等についてキャリアセンター教職員が連携をとりながら対応しています。

⑤学生への情報提供

卒業生等のポートフォリオ(作品集)が閲覧できるほか、内定者の就職活動報告書等からの情報収集が可能です。

秋田公立美術大学卒業・修了展2026

「卒業研究」および「修了研究」は、大学における教育・研究成果の集大成であると位置づけられ、作品の完成度を問うことに加え、計画性、協調性、実行力および提案力を鍛える場であり、社会的実践力の礎を築くことを目標としています。本学が公立大学として秋田市の芸術・文化をいかしたまちづくりの一翼を担うため、本学における美術・工芸・デザインの教育・研究成果を地域に報告、還元し、広く県内外へ本学の情報を発信することなどを目的として開催されます。ぜひお越しください。

【開催日時】

令和8年2月12日(木)～2月16日(月)

10:00～18:00 (最終入場17:30)

※初日は開場13:00

※最終日は閉場17:00 (最終入場16:30)

入場無料

【主催】

秋田公立美術大学卒業・修了展2026実行委員会／

秋田公立美術大学

【問い合わせ先】

秋田公立美術大学 事務局 学生課

Tel:018-888-8105 (平日8:30～17:15)

【開催場所】

- ・秋田県立美術館 1階県民ギャラリー (〒010-0001 秋田県秋田市中通一丁目4-2)
- ・秋田市にぎわい交流館AU (〒010-0001 秋田県秋田市中通一丁目4-1)
- ・秋田市文化創造館 (〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町3-16)
- ・秋田公立美術大学サテライトセンター
(〒010-0001 秋田県秋田市中通二丁目8-1 フォンテ AKITA 6階)

令和7年度 秋田公立美術大学卒業式・大学院修了式

日時 令和8年3月19日(木)

場所 あきた芸術劇場ミルハス 大ホール (〒010-0875 秋田県秋田市中秋明徳町2-52)

※変更があった場合は大学ウェブサイトでお知らせします。

(大学ウェブサイト) <https://www.akibi.ac.jp/>